



Rocket® Data Replicate and Sync

メインフレームと現代型のデータシステムを
シームレスにつなぐソリューション



目次

3. メインフレームのデータを使ってイノベーションの可能性を解放
4. 異種環境から成る複雑なIT環境に対応する
5. アナリティクスとBIを効率化する
6. 混乱を最小限に抑えながらメインフレームのデータを移行する
7. ロケットソフトウェアでメインフレームのデータを解放

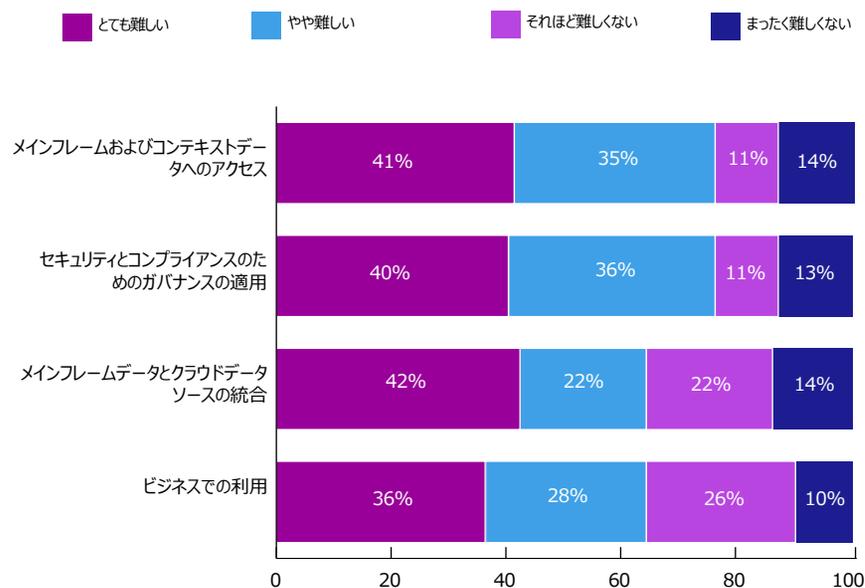


メインフレームのデータを使って イノベーションの可能性を解放つ

メインフレームには貴重なデータが豊富に蓄積されており、高度なアナリティクス、AI、アプリケーションのモダナイゼーションによってイノベーションを促すことができます。しかし、これらのデータへアクセスするのは簡単なことではありません。技術的負債、データ形式の煩雑性、また地理的位置ごとの違いが課題となる可能性があります。しかし、複数環境の同時稼働、アナリティクス/BIの効率化、データの移動、ソフトウェアのモダナイゼーションをバランス良く実施する確かな戦略があれば、これらの課題を克服することはできます。ビジネスの未来はメインフレームの中にあります。その可能性を解放しましょう。

Rocket® Data Replicate and Syncは、オンプレミスのメインフレームからクラウドまで、さまざまなプラットフォーム間でデータをリアルタイムかつ高性能に複製・同期するソリューションです。このシームレスな統合が従来型システムと現代型システムの架け橋となって、データ統合を支援します。Rocket Data Replicate and Syncを利用すれば、トランザクションはこれまで通りにメインフレーム上で実行しながら、そのデータを瞬時にクラウドのデータストアへ複製することができます。

データリーダーは、メインフレームのデータを活用することにどの程度難しさを感じていますか？



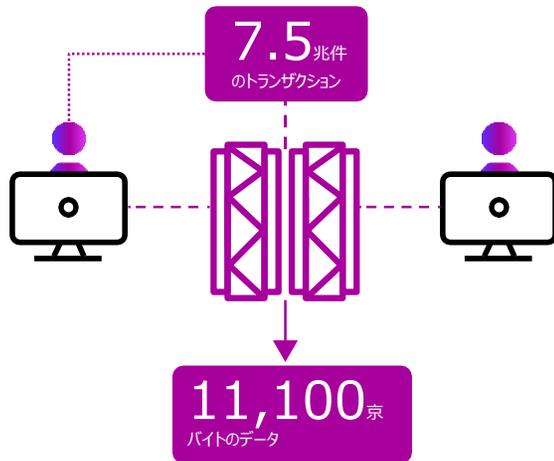
Foundryが2024年5月に実施した「エンタープライズアナリティクスにおけるAIとメインフレームデータの役割」に関する調査



異種環境から成る複雑なIT環境に対応する

データシステムが急速に成長したことで、データはさまざまな異種環境から成る複雑な環境内で分散された状態で保管されるようになりました。業務への混乱を最小限に抑えながらデータ主導の意思決定を推進するには、IBM zSystems®メインフレームコンピューター、分散システム、クラウドなどから構成されるハイブリッドITインフラ内のデータをリアルタイムに同期しなければなりません。

Rocket Data Replicate and Syncはデータ管理を簡素化します。データを双方向に複製し、すべてのプラットフォームのデータを最新状態に保つことで、データ管理者のプロセスを効率化し、データに依存しているワークロードのサービス保証レベルを満たせるように支援します。



同社は企業を買収後、膨大なデータ量の管理という課題に直面しました。z/OS®、z/VM、z/Linuxを実行するIBMのメインフレームと、Linux、UNIX、Windowsベースのワークステーション全体で7.5兆件のトランザクションから生成される11.1京バイトものデータを管理しなければならなかったのです。

さまざまなデータを複製するデータ同期に成功

ある欧州のサービスプロバイダーは、Rocket Data Replicate and Syncを利用し、大規模な企業買収後の複雑なインフラ全域でデータの整合性を確保することに成功しました。

この取り組みでは多様なプラットフォーム間の双方向レプリケーションを実装し、リアルタイムのデータ同期を実現しました。この構成によってデータ交換量と転送コストが削減されただけでなく、CPUはわずか数MIPSという効率的なオペレーションが実現しました。外部ツールを必要とせずに実行できる、迅速で使いやすいシステムになったのです。

Rocket Data Replicate and Syncを利用した結果、膨大なデータ量を効果的に処理しつつ、1日数兆件におよぶ金融取引の管理という厳しいサービス保証レベルを満たすことができました。



アナリティクスとBIを効率化する

アナリティクスやビジネスインテリジェンス（BI）アプリケーションから貴重なインサイトを引き出すには、膨大なデータセットが必要です。従来はIT部門がメインフレームからデータを一括コピーし、実質的にデータダンプを作成することで、このようなデータニーズに対応してきました。しかしデータリクエストの頻度が高まるにつれ、このアプローチではコストがかかりすぎることが明らかになりました。

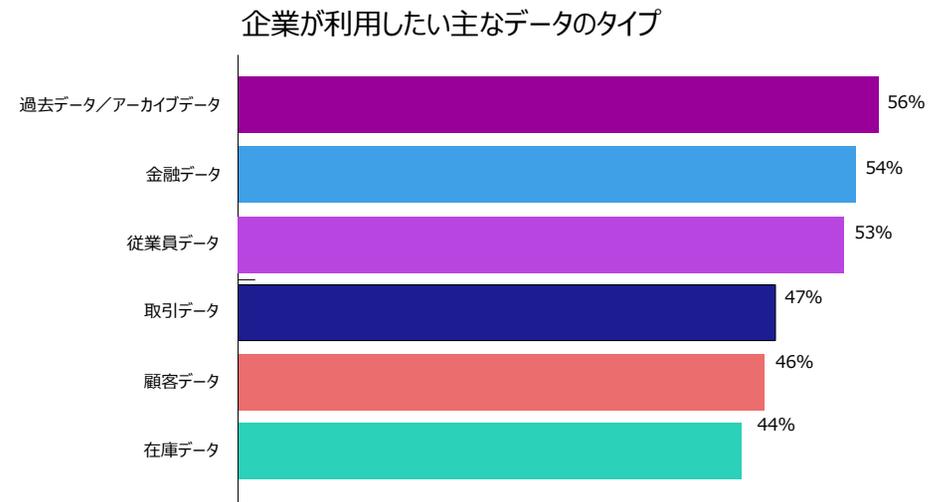
Rocket Data Replicate and Syncは、リアルタイムの双方向データレプリケーションと同期によって、この問題に対処します。メインフレームのデータをアナリティクスやBIをホストしているすべてのプラットフォームとシームレスに統合することで、データ利用のコスト削減と効率化を支援します。

わずかなコストでリアルタイムアナリティクスを実現

150万人以上の顧客を抱えているあるオーストリアの銀行は、Rocket Data Replicate and Syncで業務を強化しました。このソリューションによってメインフレームのコストを削減しただけでなく、オンプレミス環境では非現実的なほど実装コストが高くなるリアルタイムアナリティクスを実現することができました。

同行は当初、ビジネスデータをDb2®データベースに保存していました。しかし、オンライン、モバイル、セルフサービスのトランザクションが増加するに伴い、それに関連するコストも増加しました。この問題に対処するため、Rocket Data Replicate and Syncを利用し、コアデータベースシステムからより手頃なストレージオプションであるApache Hadoopにデータを移動することにしたのです。

最も価値のあるメインフレームのデータはどれですか？



Foundryが2024年5月に実施した「エンタープライズアナリティクスにおけるAIとメインフレームデータの役割」に関する調査

データをHadoopに複製することで、メインフレームでは利用できなかった新テクノロジーを活用し、複製データを用いたリアルタイムのイベント処理、アナリティクス、不正防止を実現することができました。また、構造化データと非構造化データの両方を分析し、より深いインサイトを引き出せるようになりました。



混乱を最小限に抑えながら メインフレームのデータを移行する

確固とした戦略的・財政的理由があったとしても、メインフレームのアプリケーションとデータをクラウドへ移管するには重大なリスクとコストが伴います。失敗の可能性を最小限に抑えるためには、段階的に移行するアプローチを採ることが極めて重要です。

Rocket Data Replicate and Syncは移行元の環境と移行先の環境の間における双方向のデータ同期によって、移管中のデータの一貫性を保証します。このアプローチにより、そのデータに依存している業務への影響を最小限に抑えながらも、ITチームはアプリケーションに必要な調整を集中して行えるようになります。

プラットフォーム移行中の事業継続性を保証

あるITサービスプロバイダーは、Rocket Data Replicate and Syncを利用し、既存の業務に混乱を招くことなくメインフレームアプリケーションの一部を移管することに成功しました。

この取り組みでは、メインフレームアプリケーションをクライアント/サーバープラットフォームに移動し、最終的にはADABASデータベースを廃止することを目指しました。移行期間中は、ADABASを利用するメインフレームとOracleデータベースを利用するオープンシステムの両方を同時に稼働させる必要がありました。

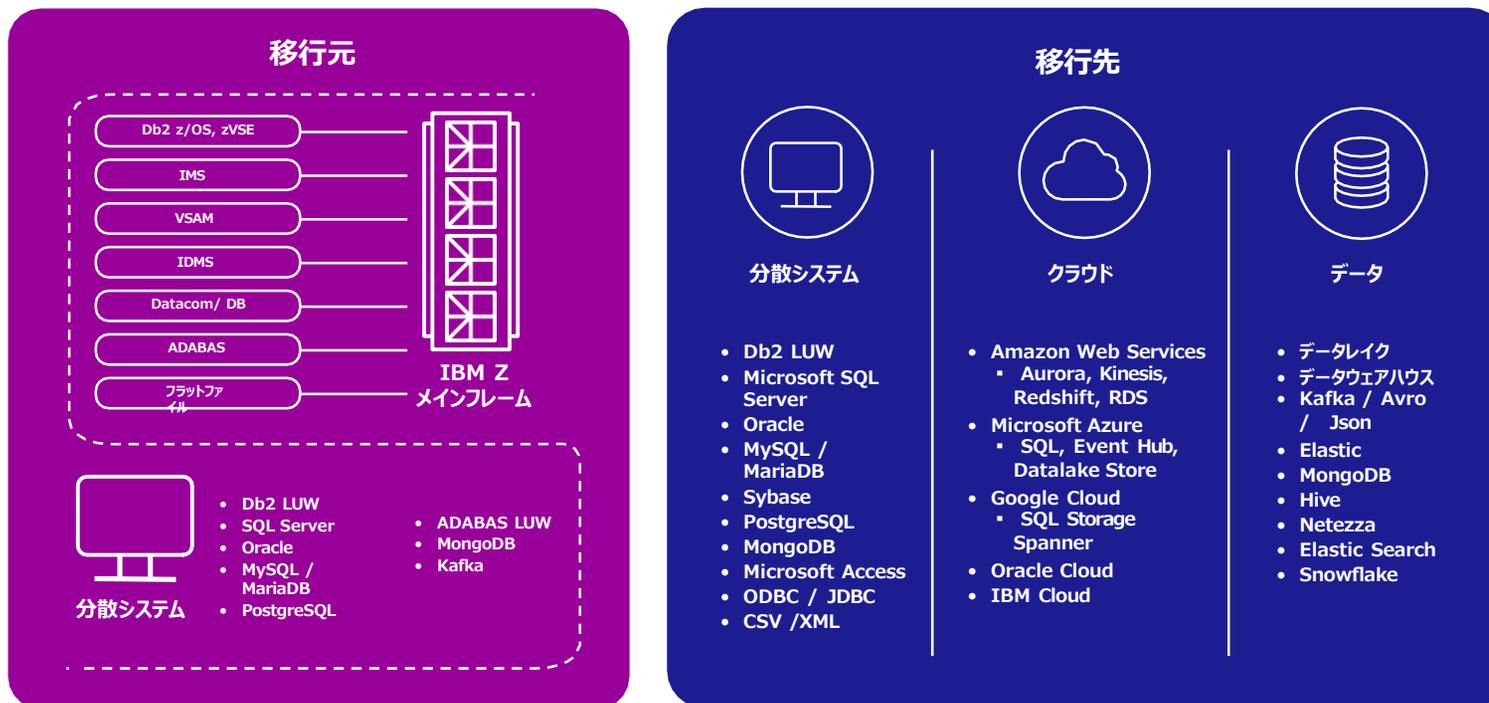
これを実現するため、Rocket Data Replicate and Syncを実装し、メインフレームのデータ変更をミラーリングされたOracleデータベースへリアルタイムに複製することにしました。双方向の同期によって、スムーズな移管には不可欠な「両環境の同時稼働」モデルを実現し、業務継続性を保証したのです。

このアプローチにより、メインフレームのオーバーヘッドコストを大幅に削減することができました。メインフレームではADABASコマンドログからの変更キャプチャのみを実行し、すべてのデータ処理は移行先のプラットフォームで行わせました。さらに、この移行プロセスにはプログラミングが一切不要であったため、専門的なスキルを確保する必要もありませんでした。



ロケットソフトウェアでメインフレームのデータを解き放つ

ロケットソフトウェアは、世界中の企業がメインフレームのようなレガシープラットフォーム上の基幹システムデータを解き放ち、イノベーションとビジネス最適化を推進することを支援します。Rocket Data Replicate and Syncは、業界で最も多くのメインフレームデータソースに対応している、ユーザーフレンドリーかつ安全で、高度にスケーラブルなデータ統合ソリューションです。



ロケットソフトウェアは簡単に始められます。Rocket Data Replicate and Syncがどのように移行元の環境から移行先の環境へのデータ統合を効率化しているのかについては、[ライブデモをリクエスト](#)し、実際にご覧になってください。



Rocket Data Replicate and Syncを 利用するメリット：

メインフレームからクラウドへのシームレスなデータ統合

- メインフレーム、分散システム、クラウドなど、移行元や移行先の環境に関わらずデータ統合を支援
- データを自動的に移行先のシステムに適応させ、統合の簡素化と一貫性を保証
- レプリケーションを自動化することで効率性を強化し、エラーを最小限に抑え、低レイテンシーのパフォーマンスを実現
- 堅牢な変換機能でデータの一貫性と完全性を維持

高度なリアルタイムの双方向レプリケーション・同期技術

- さまざまな移行元と移行先の環境間でリアルタイムにデータを複製・同期し、一方向と双方向のデータフローに対応

レイテンシーとMIPSは低く、信頼性、効率、性能は高いソリューション

- プログラミングの必要なく、高価なカスタムデータソリューションを利用する必要性をなくし、データ転送量を減らすほか、コスト効率の良いプラットフォームへ移行することを支援

- 直感的なUIでデータ移動を包括的に監視・記録し、透明性と効率性を保証することが可能
- データ変更が発生した時点で変更をキャプチャすることでレイテンシーを最小限に抑え、情報を最新状態に維持

あらゆる分析エンジンやハイパースケールクラウドをシームレスに統合し、ベンダーロックインを防止

- あらゆる環境／ソリューションセットへのデータアクセスと移行を可能にし、特定のプロバイダーへの依存を最小化
- 暗号化とセキュアな接続性でデータセキュリティを保証



Rocket Softwareについて

Rocket Software は、モダナイゼーションにおけるグローバルテクノロジーリーダーであり、コアシステムからクラウドまで、世界有数の企業のモダナイゼーションの取り組みを支援するパートナーとして選ばれています。12,500 社を超える顧客と 750 社のパートナーから信頼され、世界中に 3,000 人以上の従業員を擁する Rocket Software は、顧客がデータ、アプリケーション、インフラストラクチャを最大限に活用して、現代の世界を支える重要なサービスを提供できるよう支援しています。Rocket Software は、ボストン地域に本社を置く非公開の米国企業で、世界中に中核的研究開発拠点を戦略的に配置しています。Rocket Software は、Bain Capital Private Equity のポートフォリオ企業です。[LinkedIn](#) と [X](#) で Rocket Software をフォローしてください。



Modernization. Without Disruption.™

[Webサイトをご覧ください >](#)

© Rocket Software, Inc. or its affiliates 2025 All rights reserved. Rocket および Rocket Software ロゴは、Rocket Software, Inc. の登録商標です。他の製品名とサービス名は Rocket Software または関連会社の商標の場合があります。

MAR-15197_eBook_RDRS_V1

